



ベトナムスタディーツアについて(予告)

今年1月の理事会で、来年度(2001年度)の岡ユ協の行事の一つとしてベトナムへスタディーツアを企画すること、その下準備をするのは佐橋理事だ、ということが決まりました。これにはユネスコ会員であることと、日本ユネスコ協会連盟が寄付した「寺子屋」を視察するという条件で、一人¥3万の補助金がでるそうです(橋本事務局長談)。

岡ユ協会員が全員参加すると¥600万を越えます。いいのかなあと心配ですが、人数制限があるとすれば早いもの勝ちにしようと思います。いまからよく考えておいて下さい。受付開始は6月頃を考えています。

計画はまだ白紙に近いですが、おおよそのところは次のようです。

1. 期日 8月下旬から9月上旬までの間で、1週間ないし10日間。
2. 費用 上記補助金を別にして、¥20万~35万。
3. 訪問先 ハノイ、ホーチミン、寺子屋(位置不詳)など

中間報告を含め、今後のニュースレターには毎号記事を出せると思いますので、関心のある方はご注目下さい。また、訪問先などについてご提案があれば佐橋にお伝え下さい。(佐橋 記)

佐橋 FAX:086-272-1639 E-mail:misaki@oka.urban.ne.jp

ユネスコ・ユースセミナーが開催されました

2月11日から12日にかけて、東京代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターにおいてユネスコ・ユースセミナー2000が開催されました。この催しは過去開催されたリーダー研修会の流れを汲むものですが、今回は新たな試みとして、公募により組織された実行委員会によって企画・運営されました。

今回、岡山ユネスコ協会からは小竹、原田、藤原、山下、米津の5名が参加しました。

セミナーのプログラムはアイスブレイク(ゲームを通じ、固くなっている気持ちを解きほぐすという意味)で幕を開けました。日本ユネスコ協会連盟事務局長の岡田茂氏の講演をはさみ、分散会が行われました。分散会では「交流」...ユネスコ活動の基本とも言える人との交流について、各協会内・地域・国籍など幅広い視点での話し合い、「組織作り」...青年部の立ち上げや青年部での後継者育成といった問題点の話し合いが行われました。

続いて地域ブロックに別れての交流会が行われました。岡山ユ協は中四国九州ブロックの一員として参加しました。ここでは近隣ならではの交流を目指し、具体的な話し合いがなされました。その一環として中四国九州でメーリングリストが生まれ、すでにインターネット上での交流が始まっています。ブロック交流会は話し合いのあと、ブロック対抗でのゲーム大会となり、大いに盛り上がりました。なお、この対抗戦では中四国九州ブロックチームが優勝しました。

翌日にはこういった青年同士の交流の成果を分散会の班ごとに、あるいはブロックごとに発表しました。そしてこの流れを今後にもつなげて行くために、6月に岐阜で開催される全国大会のテーマ別セミナーの青年担当セミナーの実行委員が選出されました。岡山ユ協からは小竹と米津が加わっています。

今回のセミナーは主催こそ日本ユネスコ協会連盟でしたが、企画・運営を全国からの青年自身の手により行うという、これまでにない手法がとられました。ある面では課題を多く残したことも事実ですが(例えば実行委員が顔を合わせる機会がなかなか確保できない...など)、青年イベントは青年自身の手により行われるべきという自覚が青年の中に芽生えたという点では大きな収穫もあったのではないかと感じました。これからの全国大会、ユネスコ・サマーキャンプなどで、青年の活躍を期待したいと思います。



岡山ユ協から参加した精鋭メンバー

参加者の感想

【原田尚紀】

本当は東京のど真ん中の見知らぬ地で、全国各地からそれぞれのユネスコで活躍する青年が集った会に参加してい

る、そんな非日常的な環境の中にいたはずなのに、自分がまるで岡山でいつもの友達とごく普通に生活しているような錯覚を覚えたほど（ちょっと言いすぎかも）とってファミリアな交流会でした。

正直、知らない人といきなりあだ名で呼び合うことには少し抵抗があったけど、でもそんなことに躊躇ってる自分を恥ずかしく思うぐらいの勢いがこのユースセミナーにはありました。そんな勢いがあったからこそ、グループごとの分散会では「交流」「組織」というやや重たいテーマについても各グループともに楽しい発表があり、またブロック別の交流会では今までは横の繋がりの薄かったユネスコにせめて近隣のユネスコ同志はお互いのイベントに関する情報交換等ができるようにと、中四国九州ブロックのメーリングリストが誕生しました。こうした成果を本当の意味での成功と呼べるものにするためにも、今回ユースセミナーに参加して得たものを岡山での活動にも多く活していけたらと思っています。

最後に、今回私がこうした会に参加する機会を与えてくださった坪井さんをはじめとする岡山ユネスコ協会の皆様、また実行委員長の川野さんをはじめとした実行委員もしくはオブザーバーとしてこの会の開催にご尽力された皆様、それと楽しく交流できたセミナーの参加者全員に、感謝の意を表したいと思います。ありがとうございました。

【藤原武士】

セミナーでの一番の収穫は、分散会でした。

「交流」、そして、「組織」の二つのテーマで、それぞれ議論しました。

難しい問題なので、なかなか答えは出ませんでした。議論していくなかで、いろいろと得るものがあり、非常に為になりました。グループの皆とも仲良くなり、また皆で集まろうという話も出、この繋がりを続けていきたいと思っています。

次に、中四国九州ブロックの会に参加したのですが、ブロックのMLを作ることが決定し、今後、他協会の青年たちとの交流が活発化していくものと期待しています。

その後、二日目の発表に向けて、分散会のグループで夜遅くまで準備しました。

準備が終わった後、飲み会をしている部屋に乱入し、飲みました。なんか、見たことある子だなと思って話していると、岡山の全国大会に来てくれていた子でした。向こうも覚えていてくれて、とても嬉しかったです。

次の日の発表は、各グループとも工夫し、なかなか面白かったです。僕のグループの発表も、無事成功し、グループの皆で喜びあいました。

今回のグローバルセミナーは、非常に有意義なものでした。今後もこの繋がりを維持し、是非また参加したいです。

【小竹祐加】

はじめに想像していたより、ずっと和やかな雰囲気でした。

（すごい難しい話ばかりだと、どうしようかと思ってましたが、ユネスコ歴が長い人から短い人までいて、本当にユネスコといってもいろいろなんだ。と改めて感じました。）でも、皆さんユネスコに対する考えなんかをしっかりとっていたし、結局、分散会などなくても気がつけばユネスコの話をしていました。ほかの協会では、決まったキャンプや、国際交流会のような活動を毎年続けているようです。そういったほうが、会員をひきつけるためにはインパクトが強いのかなとも思いました。中四国九州ブロックでの話し合いでは、今後の交流を深める意味でも、MLを作るまでにこぎつけました。すでに、MLを通じて情報を交換しています。

実際セミナーに参加してみて、それぞれのユネスコの輪が繋がっていきけるようきっかけを与えてもらいました。今後、このセミナーに参加した人たちが(わたしも含めて)どう活動していくかなのだろうと思います。まだまだ、先が長いですが、「自分が楽しく。」が続くようでありたいと思いました。また、セミナーの最後で岐阜の全国大会(青年のセミナー)での実行委員も決まり、動き始めています。

最後になりましたが、セミナーにかかわった皆様には本当にお世話になりました。ありがとうございました。

【山下】

セミナー初日、最初は少し体調を崩して正直言ってしんどかったのですが、実行委員の方々や他の参加者の熱意、やる気、迫りに巻き込まれていくうちにそんなものは吹っ飛んでしまいました。っていうほどみんな積極的でユネスコという部分をのぞいてもとてもいい経験になりました。

肝心の分散会では「交流」と「組織」というテーマで議論をしました。少し重い内容だったのですがグループリーダーの方がとてもユニークな人で話し合いの成果を劇で発表することになり、これまたいろいろな意味でいい経験になりました。

自分にとってセミナーの一番の成果というのは全国各地の同年代の人たちと交流がもてたことでした。もともと「交流」と「組織」というテーマ自体、若者が数時間話をして解決できるようなものではないわけですがセミナーの意義はむしろそれこそ「交流」すること、そしてそこで得た関係を発展させていくことだと思います。今回のセミナーを出発点として全国のユネスコスタッフたちと共に活動していくことができるという実感をもてました。以上とても有意義なセミナーでした。

なお、ユネスコ・ユースセミナーの様態については、以下のホームページで紹介されています。

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand/8771>

(気仙沼ユ協・岡ユ協vol部会)米津考成

第3回県民啓発NPOセミナー参加報告

日時：平成13年1月28日（日）13:00～16:30

会場：岡山県総合福祉会館

講演：アメリカ社会における市民活動・NPOの役割

～アメリカでは、なぜボランティア活動が盛んなのか～

講師：Susan Ellis's（スーザン・エリス）：President of Energize, Inc.（エナジャイズ社代表）



アメリカのボランティア・マネジメント分野の第一人者の一人。1977年にエナジャイズ社を設立。同社の代表として、企業・行政・NPOを対象にボランティア・マネジメントのコンサルティングや研修に携わる。

これまでに手がけたワークショップは2000を越える。最近ではカナダ、オーストラリア、イギリス、アイルランド、ブラジルなど海外で研修を開く機会も多く、その著書と共に高い評価を受けている。

エナジャイズ社は、ボランティア・マネジメントに関する良質の本を出版しており、世界中の関係者の支持を受けている。また、エナジャイズ社のホームページはボランティア活動に関する情報提供やオピニオン・リーダーとしての役割を果たし、高く評価されている。エナジャイズ社のホームページアドレスは（<http://www.energizeinc.com/>）です。また、ボランティアに関するページ（<http://www.E-VOLUNTEERISM.COM/>）も参考にしてください。

講演は、スーザンさんの話術の巧みさもあったのだが、アメリカのボランティア活動の状況、ボランティア活動についての考え方、ボランティアが必要な理由及びボランティアプログラム成功の秘訣等について分かりやすく話された。また、それぞれの項目について聴衆の意見を求め、聴衆の意見に回答しながら次の項目に進むという方法で講演が進められたことから、講師と聴衆が一体となってボランティア活動について考えながら講演が行われた。多分に私見も混ざってしまっていると思うが、以下に講演内容の概要を記す。

【アメリカのボランティア活動の状況】

アメリカのボランティア活動は以下のような状況であり、とにかく市民のボランティアに対する意識が高いということであった。

- 1) 社会を変えたい、良くしたいという市民の意識が強く、その底流には、ボランティア活動により社会をより良いものに変革する、また変革できるという意識が流れている。
- 2) 実際にボランティアとして活動するだけでなく、NPOの無報酬の役員としての活動やNPOへの資金提供など、NPOの活動を支える活動もボランティア活動として認識されている。
- 3) とにかく多様な分野でボランティア活動が行われている。スポーツ、文化、福祉、教育など社会活動のすべての分野でボランティア活動が行われていると行ってもよい。また、一人で行う活動もボランティアとして認知されている。
- 4) ボランティア活動に参加するためのバリアーが低い。

【アメリカはなぜボランティア活動が盛んなのか】

アメリカでは300年前に大西洋を渡った当時において、政府は大西洋の遙か彼方であり、政府に面倒を見てもらうことができなかった。政府を当てにすることができないということから、自分たちが生きていくためには、市民同士の協力が不可欠であった。この協力という考え方がボランティア活動につながっている。イギリスではNPOが政府から資金を得ようとするが、アメリカでは企業等民間資金の導入を重要視しており、政府から資金を得ようとしていないとのことである。

【どうして組織はボランティアを求めているか】

まず、どうして組織はボランティアを求めているのかについて、講演者より投げかけが行われ、お金がないからボランティアが必要だという意見が出された。これに対して、お金があればボランティアを使う必要はないかどうかについて、聴衆同士二人でディスカッションが求められ、その回答に対して講演者の考えが述べられた。

お金がないからボランティアを使うという考えだと、お金があればボランティアは必要ないということになる。お金があったらボランティアは本当に必要ないのであるか。ボランティアはアルバイト職員で代用することができるのであろうか。これは確かに悩ましい問いかけである。また、私自身は、「どうして市民はボランティア活動をするのであろうか」という問いかけがあってもいいと思ったのであるが、「どうして組織はボランティアを求めているか」という問いかけには回答を見いだすことができなかった。

講演者は、お金があってもボランティアを使うことが重要であり、その意味付けをしっかりとしておく必要があるという意見であった。このことは、組織がボランティアを使うことの意味を十分に理解しておく必要があるということにつながるものである。ボランティアは自由な立場で意見を言うので、ボランティアを使うのは難しいと考えている人がいることも事実であり、色々な考え方もあるが、お金を払って人を雇うのではなく、ボランティアを使うのは以下の理由によるものである。

- 1) ボランティアは個人の利益を追求しないので信頼性がある。例えば、ある組織の説明をしても、その組織からお金をもらっていないと信頼される。

- 2) ボランティアを受け取る人が、お金ではなく友情の証として受け取ることができる。
- 3) ボランティアは自分が興味のある一つのことに集中できることから、いい仕事ができる。
- 4) ボランティアは年齢、性別、考え方など非常に多様であり、様々な考え、意見を得ることができる。
- 5) ボランティアを使うことにより活動の範囲を広げることができる。

【ボランティアプログラム成功の秘訣】

アメリカでボランティアをやったことがない一番大きな理由は、「誘われなかったから」ということだそうだ。チラシ、新聞やテレビ等でボランティアを募集してもあまり効果はないということであり、直接誘うのが一番よいということであった。その場合、誘ってもどうせ断られるのだからという意識は持たないようにする必要があるということであった。

また、ボランティアに参加しない理由は何かという問いかけが聴衆に対しておこなわれ、いくつかの意見が出されたが、一度ボランティアをやったら抜け出せなくなるのではないかと心配が市民の中にあるから参加しにくいのではないかと、ということが講演者から指摘された。一生同じボランティア活動をやらなければならないと感じることは苦痛であり、アメリカでは、プロジェクト毎のボランティア活動が増えているということであった。プロジェクトとして期限を区切ることによりボランティアが集めやすく、ボランティアも達成感を得ることができるということである。市民にボランティア活動に参加してもらうために留意しなければならない事項として以下の事項が示された。

- 1) ボランティアのための仕事は、重要な仕事であること。これにより、ボランティアに参加する人も達成感を得ることができる。
- 2) 有給職員にはできない仕事であること。これはボランティアをお願いする意義として重要。
- 3) ボランティアに、精神的な見返り（満足感等）があること。
- 4) 求める側とボランティアの意識等が一致すること。ボランティアに参加する側も自分の技術、活動できる時間、自分が求めるものと一致しているかどうかを考え、自分の楽しみとしてボランティアに参加できる状況が必要である。
- 5) ボランティア活動がボランティアに参加する人にとって人生の中で意義あるものであること。

私は、ボランティアについては漠然と考えていたが、今回の講演を聴いて結構考えさせられた。アメリカでは昔は確かに生き残るために市民同士の協力が必要であったのであろうが、現在もなおボランティア意識が高いというのは、個人の意識が高く、上から命令されるのではなく、自分の力で社会を変えたいという意識が高いからではなからうか。一方、日本にもボランティア活動は古くから存在していると思う。町内会活動も、葬式の時の助け合いも、少年野球の指導もすべてボランティア活動である。ただし、日本ではボランティア活動をしていても、ボランティア意識からではなく、義務だと感じてしまうこともあるのではなからうか。日本の場合は、平安の昔から時の施政者に管理されてきた歴史が、ボランティアの概念と対立しているような気もする。我々日本人は、政府や行政から何かをしてもらうという意識がまだまだ強すぎるのではなからうか。ボランティア活動を活発化するためには自分が社会を変えるという意識が広まることも必要な気がする。

いずれにしても、ボランティア活動及びボランティアとは何かということについてしっかりとした考え方を持つ必要がある。それとともに、ボランティアを集めようとした場合、ボランティアを使うのはなぜかという意味付けをしっかりとしておく必要がある。ようするに、ボランティアが集まらないと嘆くのではなく、ボランティアを使おうとする側がもっと勉強する必要があるということである。

(井勝久喜)

お 知 ら せ

スペインでの「環境教育に関する国際専門家会議」のを中心、ユネスコプロジェクトを取り上げるOHKの特集番組が放送されます。是非ご覧下さい。

番組名：OHK「ムーブ2001」

日 時：3月10日(土) 18時30分～19時

タイトル：「目指せ国際環境都市岡山」(仮題)

事務局からのお知らせ

【会員増強にご協力下さい】

岡山ユネスコ協会活動の活性化のために、会員の増強にご協力下さい。入会希望の方がおられましたら、入会案内書を送らせていただきます。事務局にご一報下さい。

発行 岡山ユネスコ協会

〒700-0026 岡山市奉還町3丁目1-28 TEL&FAX 086-255-0651

ホームページアドレス：<http://www.ddn.ne.jp/~o-unesco/> E-mail：o-unesco@ddn.ne.jp